



文化財愛護
シンボルマーク



北条町埋蔵文化財報告書29

鳥取県東伯郡北条町 ^{Hōjō}

Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書

第 9 集

2000. 3

北条町教育委員会



鳥取県東伯郡北条町

Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書

第 9 集

2000. 3

北条町教育委員会

序 文

鳥取県中部地区を流れる天神川左岸に位置する本町は、総面積21km²と小規模な町にもかかわらず、県下有数の遺跡密集地であります。本町南部に位置する曲山、土下山などの丘陵地帯においては約600件もの古墳が存在しており、天神川の沖積作用によって形成された平野部からは、縄文土器・石器が多量出土していることから、当地における生活文化の繁栄の姿がうかがえます。しかし近年、開発事業が活発に行われる中で、先人の生活の跡である文化財をいかに保護し、後世に伝えていくかが今後の課題でもあり、私たちの責務であると再認識しているところです。

今回の調査は、北条町国坂地内で行われる県営中北条地区担い手育成は場整備事業、北条町曲地内で行われる自動車・携帯電話基地由良局建設工事及び、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴いこれらの工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めてまいりました。

調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより、地元作業員、その他調査関係者各位には多大なるご尽力をいただき、深く感謝申し上げる次第でございます。

これを契機といたしまして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2000（平成12）年3月

北条町教育委員会

教育長 吉田俊夫

例　　言

1. 本報告書は、平成11年度、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
2. 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町国坂字竹井尻、下馬場、上馬場、及び曲字長谷頭、宮ノ谷において、トレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 本書の執筆、編集は清水直樹が行った。
4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水直樹が、遺構図の添書きは清水直樹・清水紀子が行った。
5. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
6. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	2
第3章 調査の概要	3
・国坂地区発掘調査	3
・曲地区発掘調査	5
第4章 まとめにかえて	7
報告書抄録	8

挿図目次

挿図 1 北条町内遺跡分布図	
挿図 2 国坂地区トレンチ配置図①	3
挿図 3 国坂地区トレンチ配置図②	4
挿図 4 トレンチ 1 平断面図	4
挿図 5 トレンチ 4 平断面図	4
挿図 6 曲地区トレンチ配置図	6
挿図 7 トレンチ 2 平断面図	6
挿図 8 トレンチ 4 平断面図	6

図版目次

図版 1 国坂地区試掘調査 調査地近景、T 1 完掘状況、T 4 完掘状況、T 4 出土遺物	
図版 2 曲地区試掘調査 調査地全景、T 1 完掘状況、T 4 完掘状況、T 4 出土遺物	



A 国板地区試掘調査地	B 曲地区試掘調査地	1. 曲古墳群
2. 土下古墳群	3. やすみ塚（土下213号墳）	4. 茶臼山古墳群
5. 北尾古墳群	6. 烏古墳群	7. 北尾遺跡
8. 烏遺跡	9. 曲226号墳	10. 船波遺跡
11. 米里銅鐸出土地	12. 米里第一遺跡	13. 米里第二遺跡
14. 天神川河床遺跡	15. 宇ノ塚遺跡	16. 殿屋敷遺跡
17. 馬場遺跡	18. 用露鼻遺跡	19. 長畠遺跡
20. 茶臼山要害	21. 中浜遺跡	22. 下神1号墳
23. 曲宮ノ前遺跡	24. 曲第一（岡）遺跡	25. 烏丸山遺跡

挿図1 北条町内遺跡分布図

第1章 調査に至る経過

今回の調査は、以下にあげる3地域において、それぞれの開発事業に伴い行った。

北条町のほぼ中央に位置する茶臼山の東側、国坂集落内において県営中北条地区組合手育成基盤整備事業に伴う集落道整備を行いたいとの連絡が鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課から北条町教育委員会にあったため、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて工事との調整をはかるべく協議を行った。その結果、本工事予定地内周辺には周知の遺跡である殿屋敷遺跡、馬場遺跡等が存在するため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

北条町曲地区の南部に広がる丘陵部においては自動車・携帯電話基地由良局建設工事に伴い、工事主体者である中国セラーラー電話株式会社と同様の協議を行った結果、本工事予定地内には周知の遺跡が見られないものの「北条町遺跡分布図」に示されるように古墳群が近接することが確認されていることからトレンチによる試掘調査を実施することになった。

また自動車・携帯電話基地由良局建設工事予定地の隣地においては、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業を行いたいとの連絡が鳥取県倉吉地方農林振興局からあったため同様の協議を行った結果、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定時期等と発掘予定箇所、そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあったうえで、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し平成11年11月から12月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

平成11年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会

教育長 吉田 俊夫

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

文化財保護委員 松本 達之・宇田川 宏・西村 勝義・日置条左エ門・前田 明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

第2章 位置と環境

北条町は、町域東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km²をはかる小さな町で鳥取県のほぼ中央部に位置し、東には県内3大河川の一つである天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には日本海が広がる。

本町北部は、東西約12km、南北約1.5kmの規模で、大栄町から羽合町にまたがって北条砂丘がひろがり、その南側には天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で、高低差が少なく平坦な地域で古くから北条田園といわれた北条平野が接している。さらにその南には、倉吉市と二分しているなだらかな丘陵で標高70mの土下山、そして標高171mの痴ヶ家山に代表される丘陵地帯の3地域に分けることができる。

では本町の遺跡分布状況を、これらの砂丘地、平野部、丘陵地別に分けて述べてみる。

砂丘地では、隣町の羽合町の砂丘の固定化と形成時期を決定するクロズナ層から、古墳時代の超一流の砂丘遺跡の長瀬高浜遺跡が発見されている。本町では、江北浜北野神社付近の河川工事の際、土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鏡片などが出土し、下神及び弓原浜の採砂場からは、弥生式土器、土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活の場がうかがえる。

平野部においては、昭和27年の北条川改修工事の際に発見された島遺跡があり、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、石器ニホンシカ、イノシシを中心とした動物骨格片が発見されている。つづいて昭和58年に行われた災害復旧工事に伴う調査において、石器や丸木舟、縄文貝塚が発見されている。また、対岸に位置する米里船渡遺跡でも、周辺の畠から縄文土器片、水田下よりひきりう、住居の用材とみられる木製品が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において、漁業狩猟が当時主な生活手段であったことは、貝塚、丸木舟の存在のほか、北条平野が当時、縄文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していた事実からもあてはめることができよう。

丘陵地においては、茶臼山古墳群、土下古墳群、北尾古墳群、島古墳群、曲古墳群など約600基が存在する県下有数の古墳密集地である。中でも、土下古墳群に含まれる210号墳及び213号墳から全国的にも貴重な鹿埴輪、鹿の子模様の入った人物埴輪が出土していることから、古墳時代に当地の繁栄した姿がうかがえる。

今回調査を行った国坂地区、曲地区はいずれも古墳密集地に近接しており、地域の歴史的背景を知る上で重要な位置を占めるが、町内にねむっている多くの遺跡のうち調査を終えたところはごくわずかであり、詳しい歴史的環境の解明はこれからである。

第3章 調査の概要

1 国坂地区試掘調査

調査地点 北条町国坂字北亥ノ目、上馬場、下馬場

調査期間 平成11年11月18日～11月30日

調査面積 67.8m²

調査概要 工事予定地は、周知の遺跡である殿屋敷遺跡、馬場遺跡、そして茶臼山古墳群が近接する茶臼山東側山裾部に位置し、現況は雜木林となっている。事前の踏査により、本工事予定地周辺の畠地表土から遺物の散布が確認されたため、試掘調査を実施することとなった。

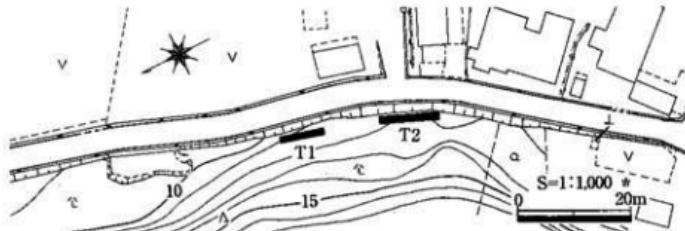
今回の調査は、本工事予定地内にみられる茶臼山斜面途中の標高約10m～20mをはかる丘陵平坦地を中心に長さ7.8～14m、幅0.8～2mのトレンチ4本を設定し遺構、遺物の確認を行った。

その結果、トレンチ1・3・4の表土中から土師器片・須恵器片が確認されたがいずれも摩耗の著しいものであった。

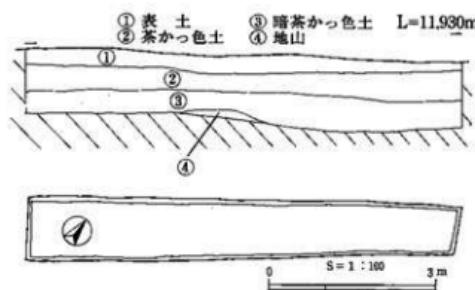
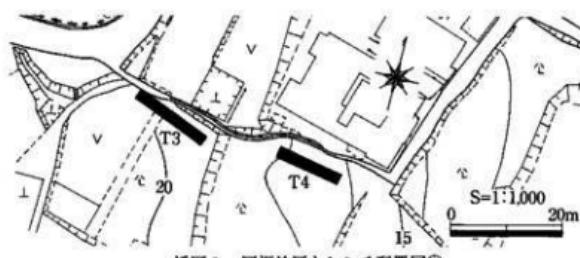
トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について表にまとめた。

〈国坂地区トレンチ一覧表〉

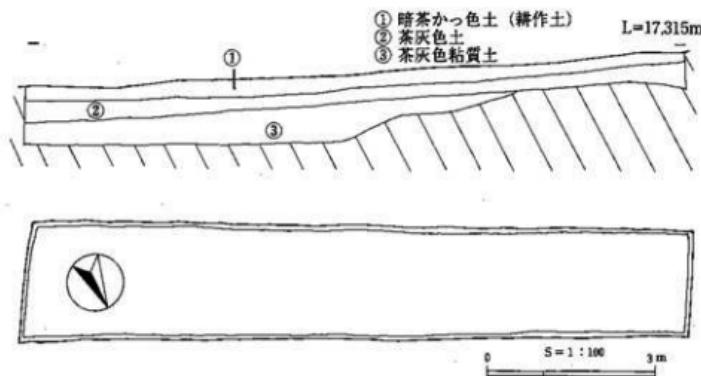
トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(m ²)	出土遺物	遺構
T 1	国坂字北亥ノ目	1.0×7.8	7.8	土師器片・須恵器片	なし
T 2	〃	0.8×10	8.0	なし	なし
T 3	国坂字上馬場	2.0×14	28.0	土師器片・須恵器片	なし
T 4	国坂字下馬場	2.0×12	24.0	土師器片・須恵器片	なし



挿図2 国坂地区トレンチ配置図①



拵図4 トレーンチ1平断面図



拵図5 トレーンチ4平断面図

2 曲地区試掘調査

調査地点 北条町曲字長谷頭、宮ノ谷

調査期間 平成11年12月1日～12月17日

調査面積 184.7m²

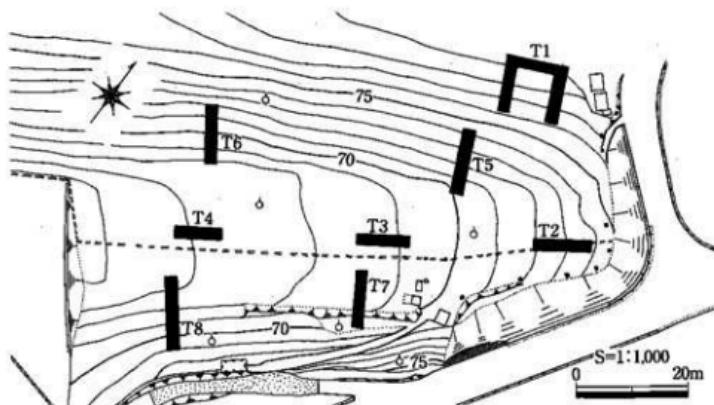
調査概要 自動車・携帯電話基地由良局建設工事及び県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業の工事予定地は、丘陵傾斜地から南西に向かってのびる谷の底部にかけてであり現況は主に畠地として利用されている。本工事予定地の周辺は丘陵尾根部に曲古墳群、そして曲天向遺跡が確認されているため、長さ8.0～12.5m、幅1.5～2mのトレンチ8本を設定し遺構、遺物の確認を行った。

その結果、トレンチ1・2・4・6の表土中から土師器片及び須恵器片が確認されたがいずれも摩耗の著しいものであった。

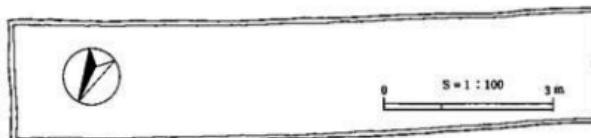
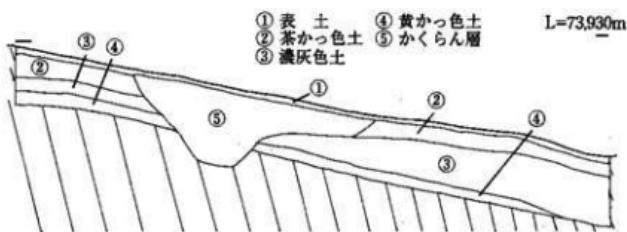
トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について表にまとめた。

〈曲地区トレンチ一覧表〉

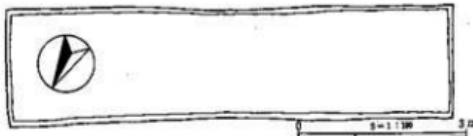
トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(m ²)	出土遺物	遺構
T 1	曲字長谷頭	1.5×10 +1.5× 7.5 +1.5×10.3	41.7	土師器片	なし
T 2	曲字宮ノ谷	2.0×10.5	21.0	土師器片・須恵器片	なし
T 3	曲字宮ノ谷	2.0× 9.0	18.0	なし	なし
T 4	曲字宮ノ谷	2.0× 8.0	16.0	土師器片・須恵器片	なし
T 5	曲字宮ノ谷	2.0×12.0	24.0	なし	なし
T 6	曲字宮ノ谷	2.0×10.0	20.0	土師器片・須恵器片	なし
T 7	曲字宮ノ谷	2.0× 9.5	19.0	なし	なし
T 8	曲字宮ノ谷	2.0×12.5	25.0	なし	なし



挿図6 曲地区トレンチ配置図



挿図7 トレンチ2断面図



挿図8 トレンチ4断面図

第4章 まとめにかえて

平成11年度は、県営中北条地区担い手育成基盤整備事業の集落道整備に伴い、国坂字竹井尻・上馬場・下馬場地区においてトレンチ4本、自動車・携帯電話基地由良局建設工事に伴い、曲字長谷頭地区においてトレンチ1本、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴い曲字宮ノ谷地区においてトレンチ7本を設定し遺跡の有無を確認した。

国坂字竹井尻・上馬場・下馬場地区周辺の丘陵地尾根上及び丘陵地平坦面には、すでに茶臼山古墳群・馬場遺跡・殿屋敷遺跡が周知の遺跡として存在することが知られている。これらの遺跡が今回の工事予定地と近接することから、丘陵地平坦面にトレンチを設定し調査を実施したところ、T1・T3・T4の表土中から土師器・須恵器片を確認した。しかしながら、遺構が確認されておらず、出土遺物をみると細片化しており摩耗が著しいこと、そして調査地付近は以前から耕作がおこなわれていたことなどから、出土遺物は開墾の際に耕作土と共に移動したものと考えられ、本工事予定地においては遺跡は存在しないと判断した。

曲長谷頭地区及び宮ノ谷地区周辺の丘陵地尾根上においては、曲古墳群、曲天向遺跡が周知の遺跡として存在していることが知られている。この地域において計画されている本工事予定地もこれら周知の遺跡に近接するため、丘陵地斜面途中及び南に向かって広がる谷の底部にトレンチを設定し調査を実施した。その結果、遺構は確認できなかったものの、T1・T2・T4・T6の表土中から土師器・須恵器片を確認したが、それらの出土遺物は国坂地区と同様に細片化しており摩耗が著しいことから、丘陵地尾根部付近に存在する遺跡からの流れ込みと推定され、本工事予定地においては遺跡が存在しないと推定される。

今回は、周知の遺跡に近接した地域において試掘調査を実施したが、いずれの工事予定地においても遺跡の存在を確認できなかった。しかしながら、本町には600基にも上る古墳、また遺跡が存在しており、そのほとんどが調査されていないことから、これから山野の開発に伴い発掘調査を行っていくうえで、本町またその周辺地域の古代人の生活・文化がいっそう解明されればと願ってやまない。

報告書抄録

ふりがな	ちうひかせはくつちようさむこくしめいじゆ						
書名	町内遺跡発掘調査報告書第9集						
副書名							
卷次	第9集						
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	29						
編著者名	清水直樹						
編集機関	北条町教育委員会						
所在地	〒689-2111 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-5570						
発行年月日	西暦2000年3月21日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° °'	東經 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
殿屋敷遺跡	鳥取県東伯郡北条町国坂字竹井尻	31366	35°28'55"	133°49'53"	1999.11	67.8	県営中北条地区担い手育成基盤整備事業
曲天向遺跡	鳥取県東伯郡北条町曲字長谷頭	31366	35°28'22"	133°49'35"	1999.12	41.7	自動車・携帯電話基地由良局建設工事
曲天向遺跡	鳥取県東伯郡北条町曲字宮ノ谷	31366	35°28'20"	133°49'35"	1999.12	143	県営農林漁業用排水油税財源身替農道整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
殿屋敷遺跡	なし	なし	なし	なし	なし		
曲天向遺跡							

図 版

図版 1

国坂地区試掘調査



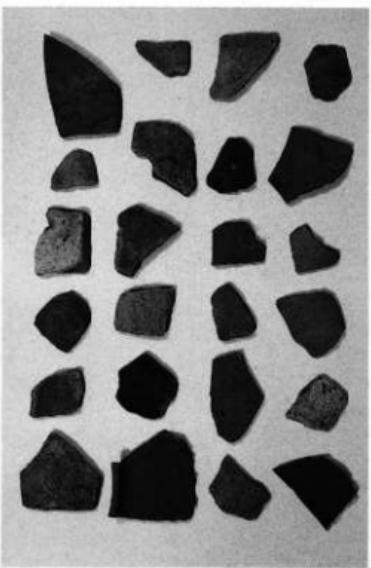
調査地近景（北から）



T 1 完掘状況（北から）



T 4 完掘状況（西から）



T 4 出土遺物

図版 2

曲地区試掘調査



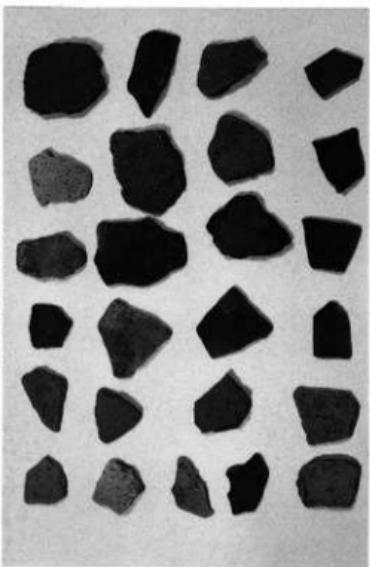
調査地全景（北から）



T 1 実測状況（東から）



T 4 実測状況（南から）



T 4 出土遺物

平成12年3月印刷
平成12年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書29

町内遺跡発掘調査報告書第9集

編集 烏取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 勝美印刷株式会社

製本 烏取県東伯郡羽合町長瀬818-1